

科 目				担当者（○主担当）					
森林文化 1				○小原勝彦（教務委員長） 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>縄文時代から築き上げてきた日本独自の森林文化、日本人の思想に深く影響を与えてきた森林文化とはどのようなものであったか。日本人の生活や宗教的な内容にまで回顧する中で、先人たちが積み上げてきた文化を考える。また新たな森林文化を築く上で必要な幅広い視点を養うため、4専攻分野の第一人者から学ぶことで、日本人特有の森林文化に気づくことを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の自然に対する考え方を理解し、森林活動につなげられる。 ・習俗習慣の中に潜む森林文化について述べられる。 ・林業、森林環境教育、木造建築、木工について、自分なりの新しい視点で考えることができる。 								
授業内容	<p>4専攻分野のゲストスピーカーから学ぶ：林業・森林環境教育・木造建築・木工からゲストスピーカーをお招きして、これからの森林文化を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業や森林研究者の視点での森林文化について ・森林環境教育や自然体験、教育活動から見る森林文化について ・木工・ものづくりを通しての森林文化について ・木工分野のゲストスピーカーから学ぶ 								
テキスト・参考書	参考書：環境考古学のすすめ（丸善ライブラリー）、森を守る文明・支配する文明（PHP 新書）								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	森林インストラクター								
注意事項	・年間に4回しか開催されないため、2回欠席すると単位取得できない。								
学生へのメッセージ	祖先の「森林文化」を学ぶだけでなく、業界の第一人者から学ぶことで、卒業時に自分なりの森林文化を語る人材になろう。								

科 目		担当者（○主担当）							
環境共生学概論		○小原勝彦（教務委員長） 小田忠信／飯島健太郎							
授業方法	講義	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>我が国には自然環境や動植物において様々な多様性が見られる。しかしそれらの魅力的な社会的資源が広く知られていないのが現状である。特に本学の研究フィールドである森林地域における啓蒙が最も大事な事と考える。</p> <p>本講義では、世界と日本の森林地域を木材資源のみならず文明・文化・歴史・伝統・家畜資源等、多様な視点から分析・研究する。また、緑を社会資本と捉え、森林をはじめとする生態系の持つ公益的機能を土地利用の観点から検討する。特に防災、減災や人の健康、そしてグリーンインフラとしての森林について概観し、これからの日本社会の方向について考える。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東西文明における歴史の差を学び、自然と人間の関係を環境ベースに考える。 ・環境共生学、文化人類学、家畜資源論等をビジネスマーケティング視点から学ぶ。 ・地域社会への貢献や企画作成するための実学的思考を育む。 ・土地利用の観点から森林の公益的機能を体系的に理解する。 								
授業内容	<p>I. 日本の歴史における自然と人間の共生の通史：1. 東西文明の勃興と小麦農業・牧畜文明と魚食文明の通史と 2. 森林資源の食品利用の歴史と現状とを学ぶ（小田）。</p> <p>II. 家畜資源利用の歴史と現状：日本は伝統的な狩猟文化や野生も大切にしている地域である。その中に生きる野生動物や外来動物と家畜の関係性と現代の問題点を学ぶ（小田）。</p> <p>III. 日本における家畜資源利用の歴史と現状：ミツバチを例にとり、ドメスティケーションの発達の立場から産業化までを分類して整理、理解する（小田）。</p> <p>IV. 近年の世界の企業理念の変化：SDGs 活動、CSR 活動の実例から学び、自然保護活動や地域貢献等の将来を討論形式で学ぶ（小田）。</p> <p>V. 自然資源の防災・減災作用：日本列島は豊かな自然に恵まれている一方で自然災害も多い。そうした自然の脅威を上手にかわし、自然環境の手入れとともに生活環境を構築してきた知恵と技術について学ぶ（飯島）。</p> <p>VI. 森林資源と環境調整効用：環境の持続性は、生物多様性と物質循環のシステムの上に成立している。環境の恒常性に資する森林環境の役割と公益的機能について学ぶ（飯島）。</p> <p>VII. 人の健康と森林環境の利用：500 万年の人類史の殆どを自然環境の中で生活してきた人類にとって、ある種の都市的環境はストレスとなり慢性的な疾病発症の要因ともなる。森林環境の利活用と人の健康効用について学ぶ（飯島）。</p> <p>VIII. グリーンインフラとしての森林環境：日本の未来社会の方向性と森林環境の役割について、そのビジョンや社会実装への密筋について討議する（飯島）。</p>								
テキスト・参考書	<p>人と動物の日本史〈3〉動物と現代社会（吉川弘文館）、保全生物学のすすめ 改訂版（文一総合出版）、野生生物と地域社会—日本の自然とくらしはどうか変わったか—（昭和堂）、家畜の歴史（法政大学出版局）</p>								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 80%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	<p>日本の大部分の面積の森林地帯は様々な資源利用の可能性が残っています。基本的には、縄文文明から現代までの日本人が、自然と共生している歴史や文化等を学びます（小田）。森林環境の存在効用と利用効用を体系的に理解することによって、その公益性を実装した未来社会のデザインがイメージできる講義にしたいと思います（飯島）。</p>								

科 目		担当者（○主担当）							
林業・製材体験実習		○新津裕 池戸秀隆／杉本和也／谷口吾郎／上田麟太郎							
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	この科目は、林業、森林環境教育、木造建築、木工それぞれ異なる分野を専攻する学生が、植林、保育、木材生産、木材加工など、林業に関わる一連の作業を共に体験し、森から木材、暮らしへのつながりに対する理解を深めることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・植林から製材までの作業の流れと、それに必要な技術がわかる。 ・枝打ちや間伐が製材時にどのように影響するか理解できるようになる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習林、林業事業地において植林、下刈り、間伐・除伐等の森林施業実習を行う。 ・A C製材棟において、製材実習を行う。 ・授業は、1.0日×4回で実施する。 <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地拵え・植林： <ul style="list-style-type: none"> ・皆伐地等において、地拵え作業（植林準備）を行う。 ・スギ・ヒノキ等の植林作業を体験する。 2. 下刈り、つる切り： <ul style="list-style-type: none"> ・植栽後、5年程度経過した造林地において、植栽木の成長を阻害する下草の刈払い作業、つるの除去作業等を体験する。 3. 製材： <ul style="list-style-type: none"> ・学内で搬出した原木等の製材作業を体験する。 4. 間伐・除伐： <ul style="list-style-type: none"> ・演習林内の植栽木の間伐及び除伐を体験する。 								
テキスト・参考書	随時資料を配布								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 20%	5. その他（技能習得状況） 20%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドの状況、天候等の事情により、実習内容を変更する場合がある。 ・実習にあたっては、指定された実習服ドレスコードを遵守すること。 ・蜂アレルギー検査で陽性判定をされた者は、エピペンを持参すること。 								
学生へのメッセージ	この実習は、森林環境教育、木造建築、木工選考の学生にとって、林業の現場、装備等を体験する貴重な機会です。また、林業用刃物、履物、雨具等の装備類をフィールドテストする良い機会になります。								

科 目		担当者（○主担当）							
クリエイターのための美術とデッサン		○松井匠							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>クリエイターには視覚的なデザインが必要とされる場面が多々ある。視覚デザインの手法は「美術の基礎＝見る力」を基盤としている。「美術は才能」と言われることが多いがこれは誤解であり、実習を通して、誰でもある段階まで習得することができる技術である。だが建築学科を含む大学などの教育機関でも、これを実践で学ぶ機会はほとんど無い。本実習では、デッサンを通して「分析力」「表現力」「審美眼」を身につける。長時間集中してデッサンを行うことで、すべてのクリエイターに必要な「自分で感じ、自分で考え抜き、表現する」という姿勢を、実感を持って理解することを目指す。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一枚の絵を自分だけで仕上げることができる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 静物デッサンを、二日間かけて1枚描き上げる。年に二度、それぞれ別のモチーフで行う。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> デッサンとは：デッサンすることの意味と、デザインと美術の違いについて学ぶ。 道具の使い方：紙、鉛筆、消しゴムなどのデッサン用具の使い方を学ぶ。 構図を学ぶ：構図を学ぶことで、構成力とデザイン力の基礎を身につける。 形をとらえる：デッサンの中で、形をとらえる能力を身につける。 光をとらえる：デッサンの中で、光をとらえる能力を身につける。 距離をとらえる：デッサンの中で、距離をとらえる能力を身につける。 質感と色をとらえる：デッサンの中で、質感と色をとらえる能力を身につける。 他者の作品を見る：ほぼ同条件で描かれた他者の作品を見ることで、自分の描いた絵を評価する力を身につける。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 50%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> デッサン用鉛筆（ステッドラー社製など）4H～5B を各自で準備する。 練り消しゴムを各自で準備する。 								
学生へのメッセージ	<p>「絵やデザインには、才能が必要」と思いませんか？美術も技術です。順序よく継続して訓練することで、誰でも一定のレベルまでデザイン力を身につけることができます。モノを見ること、つくることの基本を一緒に学びましょう。</p>								

科 目				担当者（○主担当）					
情報発信演習				○辻充孝 久津輪雅／玉木一郎／松井匠					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>今日、情報網の発達によって多種多様で膨大な情報があふれている。そのため、発信したい情報を、届けたい相手に適切に届けるために、どのようにすべきかが、これからの時代には必須のスキルになってくる。情報が伝わることで、反応があり、仲間が増え、新しい視点が広がる可能性がある。</p> <p>本授業では、伝えたい情報を整理し、様々な情報発信の方法を用いて、効果的に相手に伝えるための基本的な技術や表現を身につけることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい情報、テーマを整理できる。 ・伝えたい内容を適切に発信できる方法を考えられる。 ・基本的なツール（Word、Powerpoint、Web）を活用できる。 								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレスリリースのデザイン：時代性や社会性を意識した文章で、伝えたいテーマを的確に表現する手法を学ぶ。 2. 広報での IT 活用：SNS や HP の特徴と活用方法を学ぶ。 3. 写真撮影の基本と加工：効果的な構図の決め方、写真加工のポイントを学ぶ。 4. 写真スライド：限られた発表時間の中で、全体の構成を組み立て伝えたいメッセージを表現する手法を学ぶ。 5. ポスター作製：ポスター製作（PowerPoint の使用方法）を通して、必要最小限の情報をわかりやすくデザインする手法を学ぶ。 6. 個人プレゼン：PowerPoint を用いたプレゼンの構成や写真の選定、発表方法など、これまでの学びを総括する。 7. グループプレゼン：専攻ごとにプレゼンを行い、総合力を高める。 								
テキスト・参考書	随時、プリント配布								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 20%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学内ネットワークのアカウントが必須。 ・情報ガイダンスで習ったネットワークログインができること。 								
学生へのメッセージ	<p>情報発信は、どの分野でも必須のスキルです。特に将来起業を考えている学生は、一人でいろいろな作業をしなければならないので、この機会に基礎を固めましょう。</p>								

科 目		担当者（○主担当）							
岐阜を知る		○久津輪雅（学科主任） 長沼隆／非常勤講師							
授業方法	講義・実習	開講時期	2年間通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	この授業では、2つの視点で岐阜県内の各地域を訪ね、森や木に関わる様々な事業所等を視察する。1つは、森林文化アカデミーと連携協定を結ぶ自治体を中心に、県内の地理、森林資源、産業の特徴を知ることである。もう1つは、県内における川上から川下への林業・木材産業の流れを知ることである。 岐阜という土地を知り、産業の現場を知ることにより、自らの進路を選択する上での糧とすることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の地理、森林資源、林業・木材産業の概要が理解できている。 ・川上から川下への林業・木材産業の流れが理解できている。 ・連携自治体との連携内容、学生支援制度の概要が理解できている。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 1年前期、1年後期、2年前期に分けて、見学を行う。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、美濃市見学（1年前期） <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師の自己紹介 ・岐阜県における林業・木材産業の現状、特徴、課題 ・アカデミーとの連携自治体の紹介、連携内容、学生支援制度 ・美濃市の和紙産業、重要伝統的建造物群保存地区を見学 2. 飛騨地域見学（1年後期、1泊2日） <ul style="list-style-type: none"> ・林業、木材産業の現場を見学 ・高山市・飛騨市連携の紹介 3. 岐阜・中濃地域見学（2年前期、1日） <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜・中濃地域の木材流通、住宅産業などを見学 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 50%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	各回ともレポートを提出。								
学生へのメッセージ	岐阜県はひとつの県で森林・林業の現場から木材流通・加工の現場まで概観することができる恵まれた場所です。また、地域の担い手になってもらいたいと、県内各地の自治体が学生支援制度を設けています。この授業を通して卒業後の進路選択の手がかりを得てください。								

科 目				担当者（○主担当）					
生態系サービスと森林の公益的機能				○柳沢直					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	21世紀に入ってから人間の活動によって生じた変化を評価するために生態系サービスの概念が提唱され、生態系が人類の福利に与える影響が評価されている。評価項目は多岐にわたるが、陸上生態系に関しては森林が大きく取り扱われている。日本でも保安林等の形で森林の持つ公益的機能を保全する法制度が存在する。しかし、今世紀に入って環境問題は多様化、全地球規模化しており、地球温暖化のように国家を超えた対応が必要とされるような問題も顕著になっている。こういった問題に森林生態系は深く結びついており、当然林業もそれを意識せざるを得ない。森林を活用する分野に進む本学学生はこれらの背景を十分に学んでおく必要がある。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系および生態系サービスの概念を正しく理解する。 ・日本の森林が提供している様々な生態系サービスを知る。 ・正しい森林施業が公益的機能を最大限発揮できる環境を担っていることを理解する。 								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生態系とは何か、生態系サービスの概念はどのように生まれたのか：環境と人間との関わりの中で自然が恵みを与えてくれること、同時にその資源は有限であること、この二つの気づきが生態系サービスの概念の基礎にある。生態系の機能とからめて生態系サービスについて概説する。 2. 生態系サービスの実例と生物多様性：4種類の生態系サービス、供給サービス・調整サービス・文化サービス・基盤サービスそれぞれの実例について、そしてそれを支える生物多様性について解説する。 3. 森林の公益的機能と生態系サービス：酸素供給・土壌流出防止・洪水防止など森林生態系の持つ公益的機能について解説する。 4. 森林の公益的機能の実際：森林の持つ気温の低減効果の測定や、林野土壌の透水性の測定などを通じて森林の公益的機能について考える。 								
テキスト・参考書	参考図書：「不都合な真実」「不都合な真実2」「生態系サービスと人類の将来」								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 50%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	森林インストラクター								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	持続可能社会に向けて森林生態系が果たす役割は大きいと思います。マスコミが流す森林の公益的機能に関する内容にはしばしば間違いが見受けられます。最新の科学情報に基づいて正しい理解をしてもらいたいと思います。								

科 目		担当者（○主担当）							
森林から木材、暮らしへ		○久津輪雅（学科主任） 担当教員							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	森林文化アカデミー・クリエイター科は、森林から木材を生産し、住宅を設計したり木工品に加工して暮らしへ届けたり、あるいは森林を空間として活用したり地域を活性化したりするための、多様な専門知識や技術を学べる全国でも稀有な教育機関である。それぞれの専門分野を担う18人の常勤教員が存在する。この授業はクリエイター科1年生を対象に4月に実施し、林業・森林環境教育・木造建築・木工の4専攻の学びの内容や、各教員の専門分野について概観するものである。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・林業・森林環境教育・木造建築・木工の4つの専攻の学びの概要が理解できる。 ・18人の常勤教員の専門分野が理解できる。 ・専攻への分属を確定し、クリエイター科での2年間の学びの軸を定める上で参考となる情報を得られる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 全教員がオムニバス形式で講義する。 専攻によっては、見学や製作等、実習を織り交ぜながら実施する。 最後に振り返りをする機会をとる。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 林業専攻 演習林を散策する。樹木や森林を観察し、樹木の生活や森林の成り立ち、針葉樹人工林施業を主とする林業の概略を学ぶ。 3. 森林環境教育専攻 自然に対する科学と教育の複合的なアプローチを特徴とする本専攻について、基礎的な講義と入門的な実習を提供する。里山、森のようちえん、森林資源を活用した起業などがキーワード。 4. 木造建築専攻 木造建築の歴史から、木材の活用、木質構造の重要性、木組みの家の特徴、温熱、省エネ性能など、木造建築の特徴を学ぶ。 5. 木工専攻 木工を取り巻く旬なトピックス（木工業界、地域材、玩具、木育、伝統工芸、グリーンウッドワーク）について関連情報と併せて学ぶ。 6. 振り返り 樹種サンプルの製作をしながら振り返る。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 80%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	実習の内容、服装、持ち物などは各専攻の教員より事前に連絡を行う。								
学生へのメッセージ	4月に実施するこの授業は、18人の教員たちと知り合う機会であるとともに、約20人の同級生たちと出会い、打ち解ける機会にもなります。どの専攻に所属するか迷いがある人は、この授業を通して軸足を定めてください。								

科 目		担当者（○主担当）							
日本の森林と林業		○大洞智宏							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>森林や木材に関して学ぶ上で、自然界における森林のことや、森林を管理し使用する林業のことを理解することは極めて重要である。</p> <p>本科目は、本学クリエイター科での学び始めに際して、その学びの根幹ともいえる森林と林業に関する基礎的な知見を得ることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の代表的な森林タイプを、どんなところに分布するかを含めて説明できる。 日本の森林構成の現状とそれが成立した背景を説明できる。 日本の林業の現状と課題を説明できる。 自然と人為（施業）の両方の視点を交えて森林を見ることができる。 								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 日本の森林植生：日本の主な気候帯ごとに代表的な森林植生を概観する。植生の水平分布と垂直分布を知る。 森林の動態：植生遷移や森林の更新の基礎を学ぶ。人為の影響を含めて、日本の森林の成り立ちを知る。 日本の森林資源：日本の森林資源の構成や特性を知る。人工林・天然林の面積・蓄積・年齢分布などを知る。 日本の林業：日本の林業の特徴と現況を知る。木材需給構造の変遷を社会の流れと関連付けて概観する。 【見学】針葉樹人工林施業：針葉樹人工林の各成育段階の林分を見学し、人工林施業の流れを知る。針葉樹人工林施業の目的や施業に対する考え方を知る。 【見学】広葉樹林施業：広葉樹人工林や広葉樹天然林を見学する。広葉樹林施業の目的や施業に関する考え方を知る。 								
テキスト・参考書	参考書：「図説 日本の植生」「森林・林業白書」								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 70%	2. 試験 0%	3. 成果物 30%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 見学時のドレスコード：5 見学（山林）。 木造建築専攻と木工専攻の学生は2年次に履修する。 								
学生へのメッセージ	日本の森林や林業の姿は、クリエイター科全学生に知っておいてほしいことです。アカデミーの学びの基礎として、疑問を持ちながら学んでください。								

科 目		担当者（○主担当）							
アウトドア・チームビルディング		○谷口吾郎 萩原裕作／非常勤講師							
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>森林空間は木材生産の場としてだけではなく「体験の空間」としても活用できます。自分自信に挑戦し、他者を受けとめ、人と人のつながりを築きあげていく「チームビルディング」や、森から生まれた川を活用した「ラフティング」、ロープと自分の腕の力だけで木に登る「ツリークライミング」などもそれらのうちの一つです。また、これらの活動は、自然学校のメニューの一つとして収益を生み出す商品でもあります。</p> <p>入学して間もないみなさん自身のチームビルディングを兼ねて、美濃市が誇る豊かな森や川を舞台に頭ではなく体験的に学びます。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームビルディングの重要性を体感を通して理解する。 ・ 川や森、木、そして人とつながることの楽しさを体感する。 ・ 森林空間活用のひとつの事例を体験を通して理解する。 ・ 現場で働く人や舞台裏に触れることで初めて生まれる気づきを大切にできるようになる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <p>1泊2日の合宿スタイルで実施します。ラフティングのベース施設泊（アカデミーから車で15分。寝袋泊。レンタルもあり）。小雨決行。</p> <p>1日目：チームビルディング・プログラム体験&ツリークライミング&食事作り&焚き火 2日目：ラフティング&全体ふりかえり</p> <p>実費：ひとり5,000円程度かかります（当日現金で徴収）。 持ち物：動きやすい服装、弁当&水筒（1日目分）その他の食事は自炊もしくは購入予定。水着（その上にウェットスーツを着ます）、着替え、タオル、宿泊に必要な用具。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームビルディングプログラム体験：イニシアチブゲーム、仲間作りゲーム、プロジェクトアドベンチャー等、様々な名称で知られているチームビルディングのプログラムを体験します。 2. ツリークライミング：ハーネスをつけ、ロープ一本と自分の力だけを頼りに大木に登る体験をします。 3. 食事作り：1日目の夜、2日目の朝、3日目の昼の食事を仲間と一緒に作ります。食事作りもちょっと工夫すれば仲間づくりのプログラムになります。 4. 焚き火でふりかえり：焚き火を囲んで1日をふりかえります。体験しっぱなしではなく、この場で自分をふりかえり、仲間の気づきを共有し、学びへと落とし込んでいく大切な時間です。 5. ラフティング：仲間と息を合わせて清流長良川でのラフティング体験をします。 6. 全体ふりかえり：2日間のふりかえりを通して体験を学びへと落とし込んでいきます。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 50%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	・ 授業内容の【授業の進め方】に詳しく書いたので、よく読むこと。								
学生へのメッセージ	仲間と一緒に楽しみながら学ぶ、体験を通して学ぶ、互いに学ぶ 2日間です！								

科 目		担当者（○主担当）							
樹木・木材同定実習		○玉木一郎 柳沢直／津田格／久津輪雅／上田麟太郎							
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>樹木は森林生態系を構成する重要な要素であると同時に、林業や街路樹、庭木、木材など様々な形で利用されている。樹木同定では、岐阜県周辺に自生する樹種を中心に、60種の樹木を野外で観察し、葉サンプルを採取して標本を作成し、これらの作業を通じて目的の樹種を葉で見分ける力を養う。さらに図鑑で未知の植物を同定する技術も身につける。木材同定では、木材の構造、各部の名称、収縮・膨潤と異方性、含水率、密度、広葉樹の道管の配列など、基本的な木材の物理的特性を学ぶ。「森林から木材・暮らしへ」で配布した12種類の木材サンプルを肉眼で見分け、さらに建築や家具に実際に使われている木材を見分ける力を養う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県内に自生する樹木60種類以上の枝葉を見て樹種判別ができる。 ・上記の樹種を判別できるだけでなく、その用途や生態についても知っている。 ・未知の樹種でも図鑑で種同定することができる。 ・木材の各部の名称や、物理的特性が理解できている。 ・12種類の木材を肉眼で得られる手がかりから見分けられる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 樹木同定では、毎回、学内や周辺で10～15種類程度の樹木の枝を採取し、現地で同定方法や生態、用途について説明を行う。教室に戻った後で押し葉標本を作成する。毎回、前回作成した標本を使って授業の開始前に復習を行う。最後に試験を行う。 2. 木材同定では、木材の物理的特性について講義を行う。教室で木材サンプルを同定するほか、学内各所を回り、建築や家具に使われている材を同定する。 <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 樹木同定の基礎：樹木を同定する際にキーとなる葉や枝、幹の形態形質について学ぶ。 2. 野外での同定実習：野外で実際に枝葉を採取して樹種を同定する。その際に、生態的特性や主な利用方法についても学ぶ。図鑑を使って学んだ内容を復習する。 3. 押し葉標本の作成：野外で同定方法を学ぶ際に採取した枝葉を用いて、押し葉標本を作成する。 4. 樹木同定試験：最終回に、実際の植物を用いて樹木同定試験を行う。 5. 木材の物理的特性の講義：木材の構造、各部の名称、収縮・膨潤と異方性、含水率、密度、広葉樹の道管の配列などについて、資料やサンプルを見ながら学ぶ。 6. 木材サンプルの同定実習：「森林から木材・暮らしへ」で配布済みの12種類のサンプル板や、その他の木材サンプルを見ながら同定する。 7. 学内での木材同定実習：学内各所を回り、建築や家具に使われている材を同定する。 								
テキスト・参考書	増補改訂 樹木の葉 実物スキャンで見分ける1300種類（山と溪谷社）								
事前履修科目	森林から暮らし・木材へ								
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 40%		3. 成果物 10%		4. 取組姿勢 10%		5. その他（） 0%
関連する資格	森林インストラクター								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に指定した図鑑、剪定バサミ、押し葉標本を作成するためのA3版スケッチブックが3冊程度必要。 ・森林から暮らし・木材へで配布した12種の木材サンプルが必要。 								
学生へのメッセージ	この授業では木の名前を当てるだけでなく、生態や利用についても学ぶことができるので、どの専攻の学生の人も役に立つ知識が得られると思います。是非、積極的に学んでみて下さい。								

科 目				担当者（○主担当）					
救急法講習 1				○谷口吾郎 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	日常生活にはもちろん、森や木・自然と関わる現場では危険はすぐ隣り合わせにある。学生生活においても、野外活動や工房内での作業中に被災者と遭遇する可能性も有りうる。本実習では、緊急時に積極的に行動・対応出来るよう基本知識や技術を学ぶことを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な条件下で適正な判断が下せるようになる。 ・緊急時に必要な応急措置を講じることが出来るようになる。 ・緊急時に積極的な行動がとれるようになる。 ・理屈を知り、リスクを未然に防ぐ予防措置をとることが出来るようになる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 実践現場で活動する講師を招いて実習を行う。 基礎知識や応用のインプットを行ったうえで、期間において実践を想定した救急訓練を実施する予定。</p> <p>【実習の内容】</p> <p>1. インプット まずは、以下の項目について基本的な技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な心構え（救急法とは？） ・心肺蘇生法 ・止血法 ・やけどの対処 ・搬送法 ・日射病・熱射病 ・パニック・過呼吸 ・安全体位 ・各種症状の読み取り方 ・危険な生物 ・骨折 ・救急連絡のトレーニング ・身近な道具を使った技術 <p>2. アウトプット 期間において、実際のフィールドや被災状況を想定・再現し、インプットを基に救急の対応を行う。</p>								
テキスト・参考書	当日配布								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 30%	2. 試験 30%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は動きやすい服装で来てください。 ・資料代、消耗品代として ひとり 500 円必要（当日徴収）。 								
学生へのメッセージ	一般的な「普通救命講習」では対応しきれない「現場での応用」についても学ぶことが出来ます。将来の自分の活動をイメージしながら積極的な参加をしてください。								

科 目		担当者（○主担当）							
チェーンソー・刈払機操作入門		○新津裕 池戸秀隆／杉本和也							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>チェーンソー、刈払機は、林業の現場で使用頻度が高い道具である。いずれも、鋭利な刃が高速で回転する動力機械で、適切に使用しないと重大事故を引き起こす恐れがあり、これらの機会を使用する作業の安全を確保するため「労働安全衛生法」で定められる安全衛生特別教育や安全衛生教育の実施が義務付けられている。</p> <p>この科目では、森林施業に不可欠な両機械について、定められたカリキュラムに則り、基本的な知識、操作技術、メンテナンス方法等を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンソー、刈払機の構造、基本操作、使用上の注意事項を理解している。 ・チェーンソー、刈払機を適切に操作することができる。 ・チェーンソー、刈払機の点検、基本的なメンテナンスができる。 ・チェーンソー、刈払機に関する労働安全衛生上の法令を理解している。 ・振動障害、蜂刺され、熱中症の予防に関する基礎知識を理解している。 								
授業内容	<p>【講義・実習の進め方】 伐木造材作業用特別教育テキスト、刈払機取扱作業用安全衛生教育テキストを用い、法令に定められたカリキュラムを満たす内容の座学・実習を行う。1.0日×5回で実施する。天候、現場コンディションの状況により、日程、内容を変更する場合がある。</p> <p>【講義・実習の内容】</p> <p>1. チェーンソーの操作 (講義) <ul style="list-style-type: none"> ・伐木等作業に関する知識を学ぶ ・チェーンソーに関する知識を学ぶ ・振動障害及びその予防に関する知識を学ぶ ・関係法令等を学ぶ (実習) <ul style="list-style-type: none"> ・伐木・造材作業の基礎技術を学ぶ ・チェーンソーの基本操作を学ぶ ・チェーンソーの点検及び整備を学ぶ </p> <p>2. 刈払機の操作 (講義) <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機に関する知識を学ぶ ・刈払い作業に関する知識を学ぶ ・刈払機の点検及び整備に関する知識を学ぶ ・振動障害及びその予防に関する知識を学ぶ ・関係法令を学ぶ (実習) <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機の取扱いを学ぶ ・刈払い作業の方法を学ぶ ・刈払機の点検及び整備を学ぶ </p>								
テキスト・参考書	「伐木造材作業用 チェーンソー作業の安全ナビ」、「補講テキスト」、「安全な刈払い機作業のポイント」 ※自費購入								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 80%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 10%	5. その他（技能習得状況） 10%				
関連する資格	労働安全衛生法に基づく特別教育（チェーンソー）及び、安全衛生教育（刈払機）修了証								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教育及び安全教育の修了証は、全課程出席者のみ交付。テキストは、自費購入とする。 ・授業は、指定された実習服ドレスコードで参加すること。 ・木造建築専攻は2年次に履修する。 								
学生へのメッセージ	チェーンソー、刈払機は、森林施業や山村地域での活動に不可欠な動力機械です。この科目を通し、適切で、安全な取り扱いができるようにしてほしい。								

科 目		担当者（○主担当）							
文章表現の技術		○玉木一郎							
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>在学中にはレポートや課題研究で、卒業後には申請書や報告書などで、ある一定量の文章を書く必要がある。その文章が「わかりやすいもの」かどうかということは、その人の評価に直結する。そう気負わずとも、いくつかのルールに気をつけるだけで、わかりやすい文章を作成することができる。この授業では、まずわかりやすい文章を作成するためのルールを解説する、次にルールに従って実際に文章を書いてみる、最後にそれら交換して相互添削する。これらの3つのプロセスを通して、わかりやすい文章を作成できるようになることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい文章とはどんなものか知っている。 ・わかりやすい文章を自分で作成することができる。 ・他人の書いた文章を添削し、わかりやすいものに修正することができる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 最初にわかりやすい文章とは何かという講義を行う。その後で、実際に文章を書いてもらい、それを相互に交換して添削を行う。添削結果にもとづいて修正を行い。担当に提出する。担当は提出された文章を添削し、次回の授業のときに全員でその結果を共有する。文章を書いて添削することを3回程度繰り返す。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わかりやすい文章と技術：わかりやすい文章と分かりにくい文章を例示し、どう改善したらわかりやすい文章になるのかのルールを理解する。 2. 文章の構成：レポートや課題研究などで文章を書く際に、元となる構成の立て方の基本について学ぶ。 3. Wordの使い方：文章を書いたり添削したりする際に役に立つMS Wordのテクニックについて解説と実演を行う。 4. 文章作成の実践：例題の下で、まずは文章の骨格を作成し、それに基づいて文章を作成する。作成した文章を学生間で交換し、相互添削することで、文章作成に関する技術の向上を計る。 5. フィードバック：提出された最終稿をもとに担当が再度添削し、その結果を共有する。 6. 4～5を繰り返す：文書作成と添削を繰り返し訓練する。 								
テキスト・参考書	参考書：「理科系の作文技術」（中公新書）、「100ページの文章術」（共立出版）								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成果物 40%	4. 取組姿勢 20%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	とにかく繰り返し書くことが上達への近道です。授業の時間内に作文する時間も確保してあるので、気負わずに参加してみてください。また特に相互添削が自分の実力をアップするために有効です。								

科 目		担当者（○主担当）							
ファシリテーション実習		○小林謙一							
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	組織内コミュニケーション、プロジェクト推進、コミュニティ活動などあらゆる対人関係の場面で、合意形成や創造的問題解決の方法としてファシリテーションが使われるようになってきた。ファシリテーターという役割の理解と応用範囲を理解し、基礎的スキルの中でも応用性の広いスキルを身に付けて、実際の場面で使えるようになることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションの考え方と応用範囲の理解。 ・ファシリテーションの方法論と展開方法の理解。 ・ファシリテーション基礎スキルの習得。 ・実習を通じて学んだスキルを実際の現場で使う視点で準備する。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファシリテーションとは何か：ファシリテーションとその応用分野の概説 2. コミュニケーション・デザイン；対人緊張を溶かし場の規範をつくる「アイスブレイク」など、参加型の対話の場に必要要素と流れを知る。 3. ワークショップの基本構造と企画方法：ワークショップの基本形である体験学習法の基礎を学び、企画方法の要点を学ぶ。 4. ワークショップの企画および実践：実際にワークショップ等を企画し、ファシリテーターとして実践する。 								
テキスト・参考書	中野民夫「ファシリテーション革命」（岩波新書）、「ファシリテーター・トレーニング」ナカニシヤ出版、ほか								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	・木造建築専攻に関しては2年次に履修する。								
学生へのメッセージ	どの専攻の人も、どんな職業に進む人も、身に付けておいて損のないスキルです。								

科 目		担当者（○主担当）							
刃物の研ぎと使用		○久津輪雅							
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>森林の仕事に携わる者にとっても、木材の仕事に携わる者にとっても、刃物は欠かせない道具であり、安全で効果的に使うためには研ぎ技術を身につけなければならない。刃物は「片刃」と「両刃」に大別でき、研ぎ方が異なる。授業では小刀やナタなどの片刃の刃物、包丁などの両刃の刃物の研ぎ方を学ぶ。この授業では、さまざまな刃物の基本的な種類と用途、鋼材の特性や、さまざまな砥石の種類と用途を学び、生活や仕事で使う刃物を研ぎ技術を身に付けることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな刃物の基本的な種類と用途が理解できている。 ・刃物に用いられる鋼材の特性が理解できる。 ・さまざまな砥石の種類と用途が理解できている。 ・両刃の刃物と、片刃の刃物の研ぎ方の違いを理解し、実際に研ぐことができる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <p>1 日目は冒頭 1 コマの講義の後、ウッドラボ工房にて、ナタ（片刃）、小刀（片刃）、包丁（両刃）を研ぐ実習を行う。</p> <p>2 日目は前回の講義内容の小テストを行った後、それぞれの刃物の研ぎを復習する。</p> <p>研いだ小刀を用いて、木片をバターナイフ（予定）に加工し、研ぎと削りを繰り返し実践する。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 刃物の種類と研ぎの仕組み：刃物の種類（片刃と両刃）、刃物の構造、金属の特性（軟鉄と鋼鉄、ステンレスなど）、砥石の種類、砥石の研磨作用、砥石面の修正、などについて学ぶ。 2. 林業用刃物の研ぎ：ナタ（片刃）の研ぎを行う。 3. 木工用刃物の研ぎ：小刀（片刃）の研ぎを行う。 4. 家庭用刃物の研ぎ：包丁（両刃）の研ぎを行う。 5. 木工品の製作：広葉樹の木片を小刀で削り、研ぎ直しながら「木の卵」を完成させる。 								
テキスト・参考書	研ぎは教員作成資料を配布。								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 50%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・作業しやすく危険のない服装を各自準備。袖や裾の締まった服を着用すること。半ズボン、サンダルは禁止。 ・包丁は各自持参すること。ナタ、小刀は自分のものがあれば持参する。 ・砥石は、木工専攻の学生には購入を勧める（木工専攻ゼミで説明）。他の専攻の学生は学校の砥石を使用可。 								
学生へのメッセージ	包丁の研ぎを入れているのは、日常の暮らしでも研ぎを実践してほしいとの思いからです。切れる刃物で木を削ると、木工が楽しくなります。切れる包丁で食材を切ると、食べ物の見た目が美しく、味が美味しくなりますよ！								

科 目		担当者（○主担当）							
里山利活用実習		○柳沢直 久津輪雅／津田格／新津裕							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>人類は地球温暖化をはじめとした地球規模の環境問題に対応を迫られており、持続可能な社会を築く事が急務であるとされているが、その答えのひとつが里山をモデルにした資源利用である。里山からの自然資源の収穫は、自然の回復力を上回ることがなければ、持続可能な利用が可能である。かつて使われていた里山の資源を現代社会で利用するには、資源を産み出す山側の環境や、多様な里山資源の性質をよく知ったうえで、商品化や消費者へのアピールを考えていく必要がある。4専攻それぞれに関わる里山の利用について学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・里山が人が自然に働きかけてきた営みの結果生まれた文化的景観の一つであることを理解する。 ・里山の木竹について、里山の資源を利用している現場で資源の現状を把握したり、収穫作業を体験する。 ・自らが里山を整備・利用する際の基礎的な考え方や方法を身につける。 ・里山と都市や消費者をつなげていく活動についても現場での見学を交えながら学ぶ。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 授業は学内での講義と野外の実習、見学で構成される。エゴノキの収穫作業と茅刈りについては開催イベント参加の形をとるため、休日に開講される予定である。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茶草場の利用：里山を中心とした地域の景観・茅という里山草地からの資源を利用した農法などを利用して地域活性をはかっている揖斐川町春日の事例を見学する。 2. 獣の利活用：里山に出没する獣を捕獲・活用している事例として県内の解体処理施設を見学する。 3. 和傘製作現場見学：里山から切り出したエゴノキを使って作られてきた伝統工芸である和傘の生産現場を訪問し、職人の方のお話を伺いながら材料調達や素材の品質などについて知り、伝統工芸を通して里山の自然と人間の関わり合いについて学ぶ。 4. エゴノキの収穫作業：和傘部品材料のエゴノキを伐採、収穫作業に参加し、エゴノキを生産している里山林を検討しながら里山資源の持続的利用について考える。 5. 木材の利用：様々な民具をみることによって、適材適所を知る。また、原木栽培のキノコと原木の種類の適合についても学ぶ。 6. 茅の利用：茅葺屋根に使われる茅を収穫する。茅葺職人にお話をうかがう。 7. 商品化と流通：里山資源から商品化されたものを都会の消費者にどのようにアピールして循環型社会を築くのか、事例見学を行う。 								
テキスト・参考書	参考図書：「木材とお宝植物で収入を上げる 高齢里山林の林業経営術」								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 50%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	<p>里山を利活用していくためには、里山の持つ多面的な価値を理解しておく必要があります。何より身近な自然から恵みをいただく喜びは何ものにも代えがたいです。将来の仕事に活かせる内容も含んでいると思いますので、授業からしっかり学んでください。</p>								

科 目		担当者（○主担当）							
コミュニティビジネス起業論		○杉本和也 前野健／小林謙一							
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>クリエイター科各講座で学んだ知識・技術を実社会で仕事として展開するには、自らの事業目標や地域課題解決の提案を、周囲の人間へ正しく伝えながら、採算性の取れるビジネス手法で展開することが必要となる。各人の事業計画作成を通じて事業経営の発想と基本様式を身に付ける。コミュニティビジネス起業または組織内新事業立ち上げのための情報収集・分析、事業企画作成、プレゼンテーションの基本的ツールを紹介しながら演習形式で理解し、各人が事業計画を企画提案する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの課題を調査し、社会的、経済的側面などから情報収集して分析することが出来る。 ・事業計画を構築し、プレゼンテーションすることが出来る。 								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティビジネスとは【2コマ】 嵯峨、前野担当 コミュニティビジネスの考え方および事例を紹介する。 2. 地域資源調査の方法（実習）【2コマ】 嵯峨担当 地域での資源の捉え方を学び、実際にフィールドワークとしてどんな資源があるかを調査する。 く。 3. 情報分析の方法【2コマ】 杉本担当 調査した資源を活用するためのアイデアや地域の課題を解決するためのアイデアを創出する。また情報収集の手法を学んだ上で、創出したアイデアについてニーズや資源量を統計情報等から調査する。 4. 中間発表「コミュニティ課題の分析と抽出」【2コマ】 杉本、嵯峨、前野担当 各人が着目した資源や地域課題と分析した情報を発表する。 5. 地域課題の見つけ方や人的ネットワークの作り方（実習）【2コマ】 嵯峨担当 近隣で起業する卒業生をめぐり、事業を始めるに至った経緯やネットワークづくりについて聞 6. 事業計画の立て方 杉本担当 Business Model Canvas を用いて事業計画の立て方を学ぶ。 7. 最終発表「ビジネスプランの提案」 杉本、嵯峨、前野担当 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	ぼんやりしているアイデアを一度まとめて事業計画立てると課題が見えてくるかも！								

科 目				担当者（○主担当）					
森林文化 2				○小原勝彦（教務委員長） 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>縄文時代から築き上げてきた日本独自の森林文化、日本人の思想に深く影響を与えてきた森林文化とはどのようなものであったか。日本人の生活や宗教的な内容にまで回顧する中で、先人たちが積み上げてきた文化を考える。また新たな森林文化を築く上で必要な幅広い視点を養うため、4専攻分野の第一人者から学ぶことで、日本人特有の森林文化に気づくことを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の自然に対する考え方を理解し、森林活動につなげられる。 ・習俗習慣の中に潜む森林文化について述べられる。 ・林業、森林環境教育、木造建築、木工について、自分なりの新しい視点で考えることができる。 								
授業内容	<p>4専攻分野のゲストスピーカーから学ぶ：林業・森林環境教育・木造建築・木工からゲストスピーカーをお招きして、これからの森林文化を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業や森林研究者の視点での森林文化について ・森林環境教育や自然体験、教育活動から見る森林文化について ・木工・ものづくりを通しての森林文化について ・木工分野のゲストスピーカーから学ぶ 								
テキスト・参考書	参考書：環境考古学のすすめ（丸善ライブラリー）、森を守る文明・支配する文明（PHP 新書）								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	森林インストラクター								
注意事項	・年間に4回しか開催されないため、2回欠席すると単位取得できない。								
学生へのメッセージ	祖先の「森林文化」を学ぶだけでなく、業界の第一人者から学ぶことで、卒業時に自分なりの森林文化を語る人材になろう。								

科 目		担当者（○主担当）							
課題研究		○担当教員							
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	450	区分	必須	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>専門分野の学びを深めると、現場で隘路となっている問題が多いことに気づく。その中から、研究課題を定め、その問題解決につながる調査・実験・分析を行うことにより、社会への貢献や自らの強みを持つことを目的とする。課題の選定から、課題の解決までの一連の流れを現地現物主義を基本として実践し、論理性と説得力のあるプレゼンテーション能力を身につける。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定能力を身につける。 ・計画をたてて、物事を進めることができる。 ・研究内容を論理的にまとめ、説明することができる。 								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定：まず、何が現場での隘路になっているのかを整理する。次に、取り組みたい課題について、既往例、類似例、参考例を調査する。そして、指導教員（主査、副査）を決め、課題テーマを設定する。 2. 研究計画：具体的な取組内容を検討し、研究計画（スケジュール）を立てる。 3. 研究・調査：研究計画に従って、実施する。随時、指導教員から指導を受ける。専攻ゼミで進捗状況の確認を受ける。指導教員と研究の方向性を確認し、必要があれば計画を変更する。中間発表会（9月）で、進捗状況を報告し、助言を受ける。 4. まとめ：研究内容をまとめ、指導教員と発表内容を検討する。プレゼンテーションを作成し、リハーサルを行う。研究成果を論文にまとめる。簡潔かつ見やすく（提出論文は、図書室に永久保存される）。 5. 課題研究公表会：課題研究の成果を発表し、審査を受ける。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（発表と論文の提出） 100%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	<p>専門分野の学びを深めると、現場で隘路となっている問題が多いことに気づきます。その中から、研究課題を定め、問題解決につながる調査・実験・分析を行います。社会への貢献や自らの強みを持つことにつながります。</p>								

科 目		担当者（○主担当）							
起業系ゼミ		○杉本和也 前野健／小林謙一							
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>卒業後に起業（創業の他に、事業を継ぐ継業や副業を含む）を目指す学生、企業内で新規事業の立ち上げを計画している学生など、より具体的にビジネスプランを検討したい学生のための実践編の授業である。アイデアを実践的なビジネスモデルへ落とし込み、事業計画を立てることを目的とする。また起業を目指すもの同士のネットワーク形成、幅広い情報源へのアクセスも含み、起業に向けての心構え、ビジネスマインドの獲得を目指す。</p> <p>ビジネス感覚を養うビジネスゲームやマーケティングなどの講義と平行して、ゼミ形式で各自のビジネスモデルを深掘していく。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事業内容と将来像がイメージできる。 ・必要なビジネス感覚が身に付いている。 ・社会実験やテストマーケティングなど、起業や新規事業の立ち上げに向けた足がかりをつけることができる。 								
授業内容	<p>1. イントロダクションおよびビジネスゲーム【4コマ+2コマ】</p> <p>起業するにあたっての心構え、授業の流れと個人ワークの進め方について説明する。またビジネスゲームを行い、ビジネス感覚を養う。ビジネスゲーム後に、各自のプランを振り返り発表する。</p> <p>2. ゼミ【2コマ×3回】</p> <p>起業家の実践事例を聞いたり、各自のプランの進捗を発表したりしながらディスカッションを行い、各自のプランを深掘していく。</p> <p>3. 最終発表</p>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	起業を検討している学生はぜひ！								

科 目				担当者（○主担当）					
救急法講習 2				○谷口吾郎 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	「救急法講習 1」の講習会で、講師アシスタントとして小グループを指導サポートしてもらおう。スタッフ的位置から関わることにより、参加者側からは見えなかった段取りや気配り・参加者の反応などを見ることが出来ます。指導サポートを通じて、過去の学びや技術を確認なものにしていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況下で適正な判断を下すことが出来るようになる。 ・緊急時に必要な応急措置を迅速に行うことが出来るようになる。 ・緊急時に積極的に周囲の協力を得ながら行動できるようになる。 ・リスクを未然に防ぐ対策を講じる事ができるようになる。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 「救急法講習 1」で得た経験を基に、1年制へのサポートを行う。インプットの時間として基礎の確認を行う。様々なシチュエーションを想定した救急訓練を行う。</p> <p>【実習の内容】</p> <p>1. インプット 以下の項目についての指導をサポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な心構え（救急法とは？） ・心肺蘇生法 ・止血法 ・やけどの対処 ・搬送法 ・日射病・熱射病 ・パニック・過呼吸 ・安全体位 ・各種症状の読み取り方 ・危険な生物 ・骨折 ・救急連絡のトレーニング ・身近な道具を使った技術 <p>2. アウトプット 期間において、実際のフィールドや被災状況を想定・再現し、インプットを基に救急の対応を行う。</p>								
テキスト・参考書	当日配布								
事前履修科目	救急法講習 1								
評価方法	1. 出席 30%	2. 試験 30%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は動きやすい服装で来てください。 ・資料代、消耗品代として ひとり 500 円必要（当日徴収）。 								
学生へのメッセージ	救急法は日々新しいモノに更新されています。卒業後の自分の活動フィールドをイメージしながら参加してください。								

科 目				担当者（○主担当）					
プロジェクト 1				○担当教員					
授業方法	講義・実習	開講時期	通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義による学びの中で、学びを深化させる機会に遭遇することがある。たとえば、地域や現場で生じた問題の解決や、実践的な調査、研究、設計、製作、セミナーなどの活動（プロジェクト活動）への取り組みである。この科目は、これらの状況に柔軟に対応し、プロジェクト活動を随時正規の履修として認定することを目的としている。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と相談の上、到達目標を設定する。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 担当教員と相談の上、実習の進め方を決める。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 背景と目的：プロジェクト活動の背景を整理し、目的を明らかにする。 2. 活動内容：担当教員と相談し、プロジェクト活動の具体的な取り組み内容を整理する。実施計画をたてる。 3. プロジェクト活動の実施：担当教員の指導により、活動を実施する。 4. まとめ：プロジェクト活動をまとめる。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（担当教員による） 100%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容、期間、履修時間は、教員と相談する。 ・教員は、教務委員会へ事前に申請、承認を得る。 								
学生へのメッセージ	地域の課題に結びついた活動を、正規の履修として認定します。あなたの現地現物主義の学びを応援します。								

科 目				担当者（○主担当）					
プロジェクト2				○担当教員					
授業方法	講義・実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義による学びの中で、学びを深化させる機会に遭遇することがある。たとえば、地域や現場で生じた問題の解決や、実践的な調査、研究、設計、製作、セミナーなどの活動（プロジェクト活動）への取り組みである。この科目は、これらの状況に柔軟に対応し、プロジェクト活動を随時正規の履修として認定することを目的としている。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と相談の上、到達目標を設定する。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 担当教員と相談の上、実習の進め方を決める。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 背景と目的：プロジェクト活動の背景を整理し、目的を明らかにする。 2. 活動内容：担当教員と相談し、プロジェクト活動の具体的な取り組み内容を整理する。実施計画をたてる。 3. プロジェクト活動の実施：担当教員の指導により、活動を実施する。 4. まとめ：プロジェクト活動をまとめる。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（担当教員による） 100%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容、期間、履修時間は、教員と相談する。 ・教員は、教務委員会へ事前に申請、承認を得る。 								
学生へのメッセージ	地域の課題に結びついた活動を、正規の履修として認定します。あなたの現地現物主義の学びを応援します。								

科 目				担当者（○主担当）					
プロジェクト3				○担当教員					
授業方法	講義・実習	開講時期	通年	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義による学びの中で、学びを深化させる機会に遭遇することがある。たとえば、地域や現場で生じた問題の解決や、実践的な調査、研究、設計、製作、セミナーなどの活動（プロジェクト活動）への取り組みである。この科目は、これらの状況に柔軟に対応し、プロジェクト活動を随時正規の履修として認定することを目的としている。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と相談の上、到達目標を設定する。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 担当教員と相談の上、実習の進め方を決める。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 背景と目的：プロジェクト活動の背景を整理し、目的を明らかにする。 2. 活動内容：担当教員と相談し、プロジェクト活動の具体的な取り組み内容を整理する。実施計画をたてる。 3. プロジェクト活動の実施：担当教員の指導により、活動を実施する。 4. まとめ：プロジェクト活動をまとめる。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（担当教員による） 100%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容、期間、履修時間は、教員と相談する。 ・教員は、教務委員会へ事前に申請、承認を得る。 								
学生へのメッセージ	地域の課題に結びついた活動を、正規の履修として認定します。あなたの現地現物主義の学びを応援します。								

科 目				担当者（○主担当）					
プロジェクト4				○担当教員					
授業方法	講義・実習	開講時期	通年	時間数	60	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義による学びの中で、学びを深化させる機会に遭遇することがある。たとえば、地域や現場で生じた問題の解決や、実践的な調査、研究、設計、製作、セミナーなどの活動（プロジェクト活動）への取り組みである。この科目は、これらの状況に柔軟に対応し、プロジェクト活動を随時正規の履修として認定することを目的としている。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と相談の上、到達目標を設定する。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】 担当教員と相談の上、実習の進め方を決める。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 背景と目的：プロジェクト活動の背景を整理し、目的を明らかにする。 2. 活動内容：担当教員と相談し、プロジェクト活動の具体的な取り組み内容を整理する。実施計画をたてる。 3. プロジェクト活動の実施：担当教員の指導により、活動を実施する。 4. まとめ：プロジェクト活動をまとめる。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（担当教員による） 100%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容、期間、履修時間は、教員と相談する。 ・教員は、教務委員会へ事前に申請、承認を得る。 								
学生へのメッセージ	地域の課題に結びついた活動を、正規の履修として認定します。あなたの現地現物主義の学びを応援します。								

科 目				担当者（○主担当）					
インターンシップ1				○久津輪雅（学科主任） 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義の学びの具体的な方法の一つとして、インターンシップがある。就業体験による実務を経験することにより、学校で学んだ知識を深化させることにつながる。</p> <p>課題研究の内容を深めること、将来の進路の方向づけを行うこと、自分に適した職種を探る契機の間、となることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ専門知識と就業体験による実務の経験との融合を図る。 ・学校で学ぶ方向性を見極めや課題研究に対する目的意識を確立する。 ・就職に活かす機会として、自分に合った企業を見つける。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <p>事前調査と相談し、インターンシップ先を決定。 事務局へ届出と承認を受け、各種書類を送付。 インターンシップ実施。 お礼状と報告書の提出。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリエータ科学科主任、課題研究指導教員等に事前に相談する。 2. インターンシップ先の企業を事前調査する。 3. 事務局に届け出て、承認を得る。 4. 受け入れ依頼文書（事務局発行） 5. 学生プロフィールの送付（学生） 6. 作業記録・日報の作成（学生） 7. インターンシップ先へのお礼状を作成し（学生）、事務局へ提出する。 8. 課題研究指導教員へインターンシップ成果を報告。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 100%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	・成果物として報告書を提出する。								
学生へのメッセージ	学生であるが故のインターンシップの機会を有効に活用してください。								

科 目				担当者（○主担当）					
インターンシップ2				○久津輪雅（学科主任） 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	共通
背景と目的	<p>現地現物主義の学びの具体的な方法の一つとして、インターンシップがある。就業体験による実務を経験することにより、学校で学んだ知識を深化させることにつながる。</p> <p>課題研究の内容を深めること、将来の進路の方向づけを行うこと、自分に適した職種を探る契機の間、となることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ専門知識と就業体験による実務の経験との融合を図る。 ・学校で学ぶ方向性を見極めや課題研究に対する目的意識を確立する。 ・就職に活かす機会として、自分に合った企業を見つける。 								
授業内容	<p>【実習の進め方】</p> <p>事前調査と相談し、インターンシップ先を決定。 事務局へ届出と承認を受け、各種書類を送付。 インターンシップ実施。 お礼状と報告書の提出。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリエータ科学科主任、課題研究指導教員等に事前に相談する。 2. インターンシップ先の企業を事前調査する。 3. 事務局に届け出て、承認を得る。 4. 受け入れ依頼文書（事務局発行） 5. 学生プロフィールの送付（学生） 6. 作業記録・日報の作成（学生） 7. インターンシップ先へのお礼状を作成し（学生）、事務局へ提出する。 8. 課題研究指導教員へインターンシップ成果を報告。 								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成果物 100%	4. 取組姿勢 0%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物として報告書を提出する。 ・インターンシップ1を履修済みのもののみ、履修することとなる。 								
学生へのメッセージ	学生であるが故のインターンシップの機会を有効に活用してください。								